

コロナ抗原迅速診断キットなどで注目 **デンカ**のライフイノベーション事業

# 財界

Z A I K A I  
a Japanese business biweekly

「起業家の思いの強さ、  
生き様に投資する」  
**ジャフコグループ**  
豊貴伸一の「投資哲学」

2021 **3/10**

◎コロナ危機克服へ  
企業人・医療人の使命  
厚生労働省医務技監  
**福島 靖正**  
日本総研理事長  
**扇 百合**  
日の出医療福祉グループ  
代表理事  
**大西 壮司**



国のカタチ、企業のカバナンス、そして個人の生き方・働き方改革は——  
規制・構造改革に身を投じて約20年  
「**フューチャリー**」会長兼社長・**金丸恭文**の  
「**国の制度設計にアーキテクトチャーを!**」  
本誌主筆 **村田 博文**

表紙の人  
パソナグループ代表  
**南部 靖之**  
撮影 齊田 勲

# 「真心ビジネス」で、美を追求する女性たちに応援をしたいのです

東京皮膚科・形成外科 総院長 モデル  
池田 欣生 × 仁香



いけだ・よしお

大阪医科大学卒業。1996年大阪医科大学附属病院形成外科入局。同大学附属病院形成外科病棟医長、東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック開院。04年銀座いけだクリニック開院。現在は東京皮膚科・形成外科総院長の他、東海大学病院形成外科非常勤講師、一般社団法人・JAAS日本アンチエイジング外科学会理事長をつとめる。

員として一緒に頑張ったんですね。仁香さん、自己紹介をお願いします。  
仁香 はい、私は18歳の時に「CanCam」という女子大生向けの雑誌でデビューし、専属モデルを約6年間務めました。当時はSNSも無いし、雑誌が全て。ファッション女性誌自体の数も少なかったですし、高校生や女子大生はみんな「JJ」か「CanCam」を読んでいるような時代で、ちょうどモデルをしていました。その後、モデルをしながら起業しました。ゲルマニウム温浴や

岩盤浴のサロンです。モデル仲間は女優の道に進む人が多かったのですが、私は不動産業を営んでいた父の影響か、実業の道に進みました。  
サロンは6年経営しその後アパレルブランドを立ち上げる。それからモデルをやったり、オンラインショップを作ったりしています。その合間にたまにテレビに出たりしながら、もう27年もやっています。こんなに長く続けるつもりはなかったのですけど。

池田 今の女性の美に対する関心は何でしょう。  
仁香 新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐためのマスクで、肌荒れて悩んでいる女性が多いですね。マスクで隠れている分、緊張感がなくなっていて顔がたるみ、美容クリニックに行きたがっている女の子が増えているようです。マスクで隠せるから、今のうちにダウンタイムのある施術をしている子も多いですね。  
池田 そうですね。ただ、日本人は真面目で、「こんな時に美容医療クリニックに行つていいの？」のようないきなり気がありますけど、欧米人は全くなくて、このコロナ禍でも美容医療の市場は拡大していると聞くと、うらやましいなと思います。  
これほどみんながマスクをしなればいけない中で、モデルの需要に変化はありますか。  
仁香 厳しいのではないのでしょうか。デジタル化やペーパーレスで、女性誌はどんどん廃刊したり、季刊誌になったりしています。そうなっていくとモデルのバイも減るし、呼ばれる人も当たり前だけ減っている

池田 美しい40代女性のためのファッション誌「美ST」の読者が選ぶ「美容医療ドクターグランプリ」で3年連続1位に選ばれた池田総院長。今回のゲストは、「美ST」主催の美魔女コンテストで、池田総院長と一緒に審査員を務めたファッションモデル、実業家、一児の母である仁香さんがコロナ禍の中、これから女性はどうにして美の追求をしていけばいいのか語る。  
池田 美しい40代女性のためのファッション誌「美ST」の読者が選ぶ「美容医療ドクターグランプリ」の1位に2020年も私が選ばれました。これで3年連続1位となりました。20年前、自分自身が歳を取りたくないという思いでクリニックを開業し、「美ST」には2009年の創刊以来、誌面でお世話になっています。  
「美ST」は「美魔女」という言葉も生んだファッション誌。仁香さんとは先日、美魔女コンテストの審査

## コロナ禍でモデル需要が減少

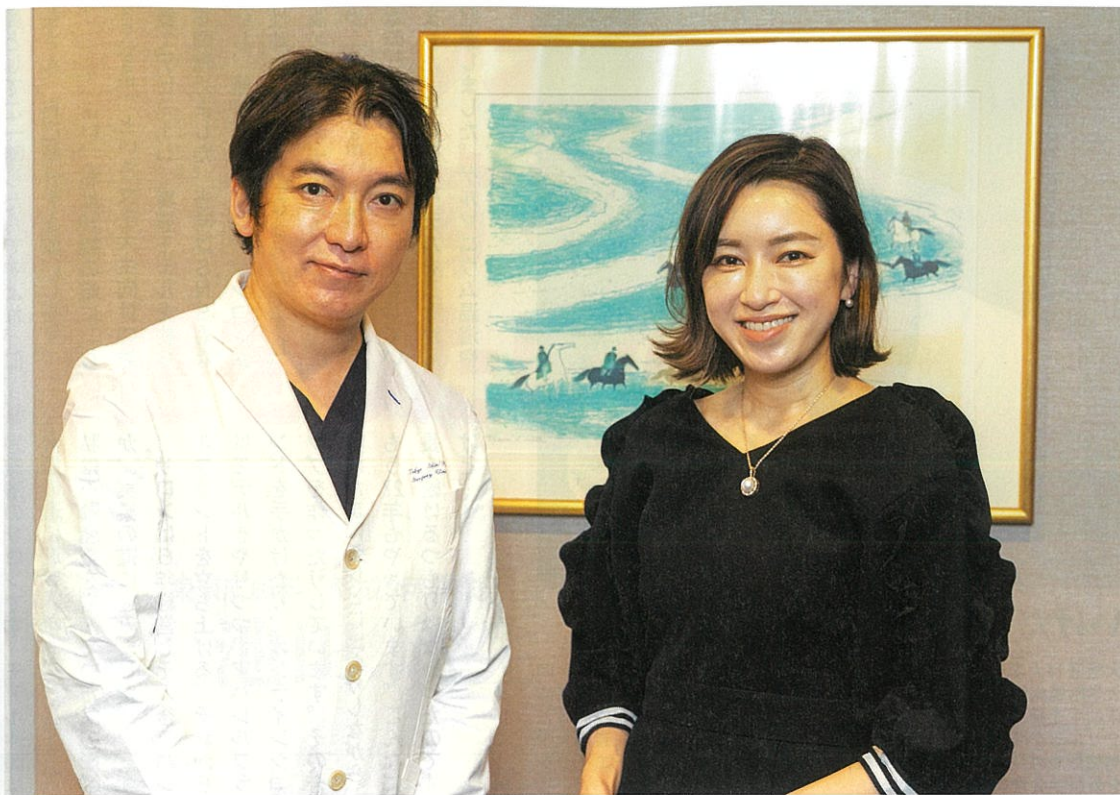
池田 今の女性の美に対する関心は何でしょう。  
仁香 新型コロナウイルス感染症の感染を防ぐためのマスクで、肌荒れて悩んでいる女性が多いですね。マスクで隠れている分、緊張感がなくなっていて顔がたるみ、美容クリニックに行きたがっている女の子が増えているようです。マスクで隠せるから、今のうちにダウンタイムのある施術をしている子も多いですね。  
池田 そうですね。ただ、日本人は真面目で、「こんな時に美容医療クリニックに行つていいの？」のようないきなり気がありますけど、欧米人は全くなくて、このコロナ禍でも美容医療の市場は拡大していると聞くと、うらやましいなと思います。  
これほどみんながマスクをしなればいけない中で、モデルの需要に変化はありますか。  
仁香 厳しいのではないのでしょうか。デジタル化やペーパーレスで、女性誌はどんどん廃刊したり、季刊誌になったりしています。そうなっていくとモデルのバイも減るし、呼ばれる人も当たり前だけ減っている

池田 美しい40代女性のためのファッション誌「美ST」の読者が選ぶ「美容医療ドクターグランプリ」で3年連続1位に選ばれた池田総院長。今回のゲストは、「美ST」主催の美魔女コンテストで、池田総院長と一緒に審査員を務めたファッションモデル、実業家、一児の母である仁香さんがコロナ禍の中、これから女性はどうにして美の追求をしていけばいいのか語る。  
池田 美しい40代女性のためのファッション誌「美ST」の読者が選ぶ「美容医療ドクターグランプリ」の1位に2020年も私が選ばれました。これで3年連続1位となりました。20年前、自分自身が歳を取りたくないという思いでクリニックを開業し、「美ST」には2009年の創刊以来、誌面でお世話になっています。  
「美ST」は「美魔女」という言葉も生んだファッション誌。仁香さんとは先日、美魔女コンテストの審査



仁香

18歳でCanCam専属モデルとしてデビュー。その後数々のメディアで同性からの支持と共感を得て現在に至る。29歳で起業しエステサロン、アパレルブランドを立ち上げる。モデル業の他に実業家として自身の経営の他に最近では美容、アパレルブランドのコンサルティング、商品開発などにも挑んでいる。またウォーキングアドバイザーとして、ウォーキング講座、自身のメイク術についてメイク講座を各所で開催。



みたいな感じのものをやりたいと思っています。こういう時代だからこそ、「真心を込めて」みたいな一番大切なことにもう一度立ち返らなければいけないなど。大所帯を整理整頓して、最小限の人で、自分ができるものを提供していければと思います。

**SNSはフォロワーの数ではなく中身です**

**池田** SNSの仁香さんのフォロワー数はどれぐらいですか。

**仁香** 私はそんなにいないんですよ。でも、「いいね」を広く浅くつける人が25万人とか50万人とかいるより、応援してくれる人が5万人ぐらい集まっている感じです。だから、私の場合は費用対効果が結構高いとよく企業さんから言われます。私のお客さんは、私が「良い」って勧めたら、必ず80%以上の人が定期購入するらしいです。何十万人ものフォロワーが「いいね」をつけたからといって、その何十万人が買うわけではないというよりは、最近企業さんのほうも分かってきているようですね。大事なのはフォロワー数ではなく中身だと。

**池田** よくわかります。僕もイベ

ントなどで代理店がインスタグラマーとかを呼ぶのをよく見ますけど、あまり信用していません。むしろ、うちのクリニックの女性医師が言った言葉のほうが反響が大きかったりします。でも、企業さんは変わらずインスタグラマーに対してPRをしますね。やっぱり費用対効果があるからPRするんでしょうか。

**仁香** 企業さんも効果がないことは気づいてきていると思います。「全然駄目だった」って結構聞きますから。やっぱりフォロワーの数ではなくて、どれだけ密にフォロワーと付き合っているかが重要ではないでしょうか。私は昔よりもすごくPRの仕事が増えました。きつとつわさがうわさと呼んでいるのですね。

**池田** 今はコロナ禍で海外に行けないので、情報収集は大変ですね。私は今までは、例えば海外の学会に行つて、何百個も医療機械がある中を全部回つて、一番いいものを持って帰ってきていたわけです。ところが、今は行けないので、インターネットの情報を見ることになりましたけど、どの会社も全部、「良い」「良い」って、もちろん駄目だって書いてあるものなんかないですから、その中から見極めるっていうのは、非常に

るのかもしれない。

**仁香** 私も前はモデルとして、素敵な服を着て写っていたらよかったですが、すごく変わりました。例えば、今はみんなが自分の人生を楽しめたり、もっと綺麗な女性になれたりするアドバイスを、オンラインを開設して送ると、その情報をほしい人が課金してくるので。新型コロナウイルスが流行する前からそうした流れはありましたが、コロナ禍になってから明確になりました。これからも増えると思います。

**加齢との闘いは綺麗をキープする**

**池田** 健康面、美容面で気をつけていることは何ですか。

**仁香** 今はまだ45歳ですが、もう少し歳をとって更年期になったら、女性ホルモンの減少とともに太ってしまうのではないかと不安です。コロナウイルスって、肥満が重症化リスクを高めるとい面もありますし、今後は健康志向ももっと強まるでしょうね。

**池田** この仕事をしていると、正直、50歳、60歳を過ぎてから綺麗を続けている人は少ないと言えます。でも、仕事のモチベーションとして大変です。だから、仕方がないので今、僕は自分で医療機器を日本の国内で作っています。生命科学の再生医療は難しいですが、やりがいがありわくわくします。私の心の中では、その延長線上に「不老不死」があるのです。

**仁香** 私もアパレルブランドのための買い付けに行けないので、困っています。これまでは全部、韓国で服を作っていました。今は韓国のスタッフとオンラインでやりとりしています。「これは？」「これは？」ってやってみるけど、素材は分かりませんが、時間はかかりませんが、「じゃあ、1回送って」って。本当は自分の目で見て、触って確かめたいのですが、行けない。そういうジレンマはありますね。

**【オンラインサロン】**

stayhomeという新しい時代の到来と共に夫婦でオンラインサロンを開講。“Nica’s show!”

**HP** <https://lounge.dmm.com/detail/2922/>

**【YouTube】**

ニカショウ夫婦

**HP** <https://www.youtube.com/channel/UC2BqZHCFyIBQIVaPCFhUE8A>

**東京皮膚科・形成外科銀座院**

〒104-0061

東京都中央区銀座2-11-8 ラウンドクロス銀座 3F

**TEL** 03-3545-8000

**HP** <http://www.251901.net/>

綺麗を続けている人、例えば銀座のママさん、モデルさん、エステティシャンとか、そうした人たちはいます。今後はそこをフューチャーしていきたいと思っっているのです。加齢との戦いですから、どちらかというと「綺麗にする」ではなくて、もとの綺麗をずっとキープするというのがイメージですね。そういう人は別にものすごく激しいトレーニングをしているわけでもないですから、綺麗を続けている人がどういうことをしているのかということもみんな共有したら、60歳になっても70歳になっても綺麗を続けられる人は増えてくると思います。僕が70歳の患者さんにそう希望された時、かなえられるぐらい技術力を上げて、魅力のある人を作っていきたいと思っています。今後の仁香さんの事業展開で考えていることはありますか。

**仁香** 昔前は私にもアシスタントがいましたが、今って意外と一人で完結する場面が多いですよ。事務所も要らなかつたりしますし、みんなでシェアするシェアオフィスみたいなものもありますし、必要なことが大きく違ってきている気がします。なので、昔に帰って「真心ビジネス」

**池田** 仁香さんの今後の抱負を教えてください。

**仁香** はい。前にもお話しした通り、私は18歳で「CanCam」専属モデルとしてデビューして、同性からの支持と共感を得て、常に時代とともに世代に寄り添いながら活動してきました。これからも常に進化続ける精神で美を追求する女性たちへ情報発信をしてまいります。